

## SUGカードゲーム参加者の意見

1. 日曜日、午前5時25分 杉並区に「震度7」の激震 今までに経験したことがない 激しい揺れである。
  - ・一部で同時多発火災発生
  - ・家屋多数倒壊
  - ・インフラの断裂多数
2. 火曜日の朝、2日が経過し救援所の運営も少し落ち着いてきた  
自宅避難していた人たちから、救援所に支援を求める声も聞こえ始めた。
3. 近隣で一人住まいの障害者(視覚・聴覚・知的・車いす・・・)の方の姿が見えないので心配だ、との報告が避難者からありました。救援所として何か対応しますか。

## 参加者意見

- ・安否確認は必要だが、掲示をするのは個人情報を守る観点から好くない。
  - ・理由があつて救援所に来られない場合もある。
  - ・情報の整理と周囲を含めた情報内容の確認が先決。
  - ・民生児童委員と各救援所が共有する助け合いネットワークの「名簿」を活用し、救援支援部と連絡協力して安否確認(適切に更新された名簿に基づく)。
  - ・聴覚障害者は掲示板、視覚障害者は声掛けで探す。
  - ・捜索チームを出すには現有勢力次第。
  - ・近隣の住民に情勢を聞く。
  - ・要配慮者を含め定期的に住民情報を集めている(松浜町会)。
  - ・安否と共に、防災グッズを準備しているかを確認する。
4. 発達障害(感覚過敏があり、集団の中に長時間いることはむずかしい)の方が、家族と避難してきました。個室またはテントで仕切れる場所を希望しています。

## 参加者意見

- ・症状は人ごとに違うから一律に対応を決められない。
- ・隔離されるだけではつらい場合もある。当事者の希望を尊重する。
- ・クールダウンのための場所(共通の部屋)を設ける。
- ・障害者を受け入れる前提条件(場所、設備、・・・)が分からない。
- ・障害者や弱者への対応マニュアルの有無は？
- ・教室・個室・トイレ・水回り、とかを震災訓練時に質問することが重要。
- ・在宅避難が一番良いので、耐震化された家に住むのも大切。
- ・予め、助け合いネットの支援プランに対応方法への希望事項を書いておく。
- ・安全であることを確認した上で、自宅避難を出来るだけ選ぶ。
- ・第二次救援所に個別スペースを確保する。
- ・課題 狭小な敷地ではテントを張るのが難しい。
- ・杉並区 HP なら自分のスマホで、好きな時に情報確認できる。
- ・事前に民生委員等に伝えておく方が良いが、ヒアリングの際に遠慮される事も。
- ・避難先体育館等で明るくないと眠れない人をどうするのか？  
全体と個別のバランス
- ・同じ障害を持つ者同士、それぞれの障害を承知しているので譲り合えることもある。

- ・周りの人に反応してしまうので基本は、自宅避難。

5. 視覚障害者の方から、避難所全体のレイアウトが分かりにくく、夜中に一人でトイレへ行くようなとき、経路がわかるか不安だとの申告がありました

#### 参加者意見

- ・視覚障害者には、他の方法を考える必要があるが、避難所も分かりやすい工夫、周りの協力が大事
- ・経路確保を徹底したうえで、経路を覚えてもらうこともできるのではないか。
- ・視覚障害者には、他の方法を考える必要があるが、避難所も分かり易い Layout 図が必要。
- ・障害の種類が分かるバンダナを身に着けていただく。
- ・声掛け。放送の多用
- ・それ以前に、民生委員などを中心に普段から見守る関係を築く。向こう三軒両隣の間人間関係。災害時、ボランティアの要請をし易くなる。
- ・トイレの近くに場所を確保。
- ・協力のボランティアに救援所のベストをつけてもらう。

6. 避難所に車椅子の子どもを連れた親子がやってきました。昼夜を問わず1時間に1回程度、痰の吸引が必要なため、電源(コンセント)の近くにいたいと希望します。希望が叶えられますか？

#### 参加者意見

- ・できることは限られるので、救援隊本部で対応をお願いするしかない。とはいえ、とりあえず助ける算段をしないわけにはいかない。
- ・バッテリー、蓄電池の充電(充電機器も含め)は重要ポイント。
- ・重度な障害者に合わせて設備は考えるべき。
- ・避難所運営の障害者 manual は当事者を含めて作成するのが一番だが、世間との関係で家族とかが表に出ない場合は、仲介者として障害者支援団体や IT を活用・利用するのも一助。
- ・備蓄品一覧 D 欄にある「発電機」を活用する。
- ・受入れ前準備、場所の確保、案内。周囲の一般区民、特に健常者の理解。
- ・防災費用で全家庭に発電機を提供してはどうか。
- ・用意可能だが、皆我慢しているので「特別扱い」は不公平との不満が出る可能性あり。
- ・電源タップを数多く準備しておくべき。
- ・相互に譲り合う、優先度をつける等の配慮。
- ・医療に関わることなので対応可能な施設に移送。
- ・保健室を利用する。
- ・発電機を用意(ソーラー発電も)。
- ・病院(緊急医療救護所)との連携。

7. 重度の認知症と思われる方が、避難所の入り口近辺を徘徊していると報告がありました。ご家族の方も見当たらないようです。

#### 参加者意見

- ・認知症の対応は経験者でないと難しいので、事前に対応するボランティアを準備することが必要。
- ・徘徊者は地元民とは限らない。声掛けして、收容し、対策本部へ連絡。
- ・徘徊？ 認知症単独避難者。まずは安全確保。避難所に知人がいるかも。
- ・外部への出入り口を夜間は閉める、来所者はコールボタンで対応。
- ・事前に想定してボランティアを募集しておく。
- ・避難所受付にて対応可能なボランティアを登録し、有資格または知識理解あるボランティアによる対応。
- ・掲示板などでご家族を探す。
- ・優しい声掛け。
- ・安心して過ごして頂ける環境の提供。

8. 聴覚障害の家族が避難しています。食事の案内など情報が伝わらず、その家族はいつも出遅れて列の後ろのほうに並んでいます。

#### 参加者意見

- ・いろいろな道具・手段によって情報提供を丁寧にする。
- ・周りの協力を期待するとともに、必要な援助を頼む。
- ・情報伝達手段としてピクトグラムを活用する。
- ・情報は簡潔で分かりやすい言葉で発出する。
- ・プラカードやスマホの活用で、連絡事項を知らせる。
- ・障害者・弱者は別の個室、教室に收容されている場合は、食事などは配給してあげる。
- ・聴覚障害バンダナの着用により、自然に周囲の支援が期待できるのでは。
- ・ホワイトボードなど活用し筆談、ジェスチャーを活用する。
- ・神明救援所では住民が予めグループ分けされており、そのリーダーには要配慮者の情報は伝えておくことになっている。
- ・聴覚障害者は避難所配食行列で後ろになる。周囲が手伝う。
- ・認識しやすいようにバンダナを活用（障害タイプ別に色で識別）。
- ・聴覚障害者にはアンブルボードの活用。

9. 車いす生活です。段差へのスロープの設置、体育館などでの移動スペースの確保、誰でもトイレの設置など希望されています

#### 参加者意見

- ・この問題は社会的かつ日常的な問題で、行政が解決すべき問題である。  
例えば、体育館の段差があった場合は、問題提起は震災救援所の責任で代替案を考えておくべき。抜本的解決は、行政での問題。
- ・一階、トイレの近くが望ましい。
- ・スロープの先に障害物がないように。
- ・体育館等の避難所にはエレベーターがあっても必ずスロープをつける。
- ・普段でも不自由。ましてや緊急事態では。自衛するほかない。
- ・障害者個々にニーズは異なる。手段を選べるように準備する。
- ・救援所ではスロープなど事前の準備をしておくことが大切。

10. 次の課題について、時間の限り話し合ってください

①食物アレルギーの対策は

さらに「豚肉を食べられない外国の方」への対応

参加者意見

- ・炊き出しでは使用した材料の明記が必要。
- ・自己管理・自己申告が前提。
- ・ペットのアレルギーもある。ペットは人と離れたエリアに場所を確保。

②震災救援所では

障害者の受け入れについてどこまで準備していますか？

障害者としてはどのような準備をしてほしいですか？

③在宅避難している人をどう把握し、どのように支援しようと考えていますか？

参加者意見

- ・避難所でもある程度は備蓄が必要だが、原則は常用薬と同じように患者には色々な症状の方がおり、その患者さん自身での備蓄・準備が必要。
- ・在宅避難でも「避難カード」を避難所までいって記入しなければならないという現状。
- ・助け合いネット登録者は事前に記入して用紙を持っていけないか。
- ・家の外に貼り出す「在宅避難しています」カードは、外から分かりやすい反面、それ以外の家に泥棒を招く。
- ・在宅避難者に情報を伝える方法の検討（回覧板？）。
- ・平時から地域見守り隊の活動や近所のネットワークの構築。

全般的なこと

- ・どういう立場で考えるかで対応が異なってくる。
- ・普段の救援所連絡会では考えていない状況ばかりで、今後考えていかななくてはいけないと思う。
- ・その場で対応しきれないことも多く、やはり地域の状況をもとに事前に対応を考え、設備を備えておくことが必要。
- ・質問の設定が少し大雑把？
- ・住民を含め、地域で防災をもっと意識してほしい。
- ・区民センターは二次援助所で専門家はいないが、東北大震災帰宅困難者には、役に立った。
- ・簡易トイレは健常者でも使用が難しく平常時から慣れると良い。
- ・災害時はボランティアもまず自分、家族の命優先。
- ・NPOで災害ボランティアではお宅の片付けや話し相手も。
- ・桃二小避難所には医師がいる。
- ・救援所運営は、様々な人の意見を入れた方が良い。
- ・提供された避難所登録書は、字が小さいので拡大して使用する。
- ・安否確認など個人情報を掲示する際は、必要最低限の情報に限定する。
- ・区役所の決定判断より避難所の自主性に任されている。

- ・小さい区域ごとで、顔見知りになろう。普段から挨拶をしあおう。
- ・一週間の食糧、生活必需品の確保を。
- ・防災食より食べなれたものを「ローリングストック」する。

#### トイレについて

- ・トイレの汚物は生ごみでOK。
- ・性犯罪を防ぐ配慮が必要（男女のエリアを分ける。死角にならない場所での設置）。
- ・マンホールトイレの安全性確保（高齢者や障害者が体重をかけても安全であること）。

ご意見ありがとうございました

SUG カードゲーム参加者数 58名

#### ご参加いただいた団体（敬称略・順不同）

天沼一丁目町会 本天沼西町会 荻窪川南町会 荻窪東町会  
 荻窪中央町会 神明町文化会 松溪自治会 沓掛いづみ会  
 荻窪白山親和会防災会 宮前二丁目防災会 宮前三丁目会  
 荻窪小学校震災救援所運営連絡会 松溪中学校震災救援所運営連絡会  
 荻窪地区民生委員児童委員協議会 天沼地区民生委員児童委員協議会  
 宮前地区民生委員児童委員協議会  
 杉並災害ボランティアの会 (一社)地域防災コーディネーター育成機構  
 (一社)ほっとけない連  
 NPO 法人 防災コミュニティネットワーク NPO 法人 みかんぐみ  
 NPO 法人 すぎなみ子育てひろば chouchou